

SKY DOG[®] SPORT

vol.7




PRO PLAN
プロプラン
プロプラン カップ
プロプラン
● 日韓親善試合 ●
 



JFAメンバーの皆さんへ

暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

7月に入り、いよいよ夏本番！海水浴に、川遊びに、そしてキャンプにと、夏の計画を立てられている方も多いと思います。熱射病対策など、愛犬の体調管理には充分気をつけてお過ごしいただきたいと思います。

さて、皆さんご存知のことと思いますが、去る5月22日・23日の両日、歴史的フリスビードッグ選手権 "The 2004 Ashley Whippet[®] Canine Frisee[®] disc World Championships" が、昨年に引き続いて、アメリカ ロサンゼルス のラ・ミラダで開催されました。わが国からも "Open" (フリーフライト部門) に3チーム、"Catch and Fetch" (ディスタンス部門) に1チーム、計4チームのトッププレイヤーたちが参戦し、各チーム素晴らしい成績を残しました。

また、今年3月に韓国フリスビードッグ協会がJFAの全面協力によって正式に発足しました。これを記念して、去る6月5日・6日の両日、播磨科学公園都市 (兵庫県赤穂郡光都) において、『プロプランカップ 2004 日韓親善国際フリスビードッグ選手権』を、韓国からのプレイヤーを招待して開催いたしました。

今回お届けした『SKY DOG SPORT Vol.7』では、両大会のレポートと、AWI世界大会に出場した各選手の参戦記をご紹介します。



AWI

Catch and Fetch (ディスタンス部門) / 優勝
新倉謙吾 & 音々

まずは、JFA関係者の皆様、一緒に行った仲間たち、アメリカの選手達、The Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championshipsの関係者の皆様、日本のプレイヤー達にありがとうございました！！

こんな成績を残せた事を誇りに思い、素直に嬉しく思います。

今回アメリカに行かせて頂いて、いろいろ勉強になった事、課題になった事など、たくさんの収穫がありました。これを糧にまた一步大きくなれたらと思います。

それと、アメリカで一番感じたこと…

国も人種も違う、犬たちに対する接し方も考え方も違うけど、犬に対する思いはみな一緒かなと感じました。

それでは日本中のプレイヤーの皆さん、またどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

皆で楽しくやりましょう！！

本当にありがとうございました！！

新倉謙吾 & 音々



アメリカ遠征無事終了！

Open (フリーフライト部門) / 第11位
飛弾野文泰 & 紋次郎

6月9日検疫が終わり、紋次郎が戻ってきました。検疫期間中は、一緒に行った早川さんがずっと面倒を見てくれたので、紋次郎はとても元気でした！

今回の大会は、初めての海外旅行ということもあり、いろいろ不安もありましたが、特にトラブルもなく、紋次郎もいつも通り元気だったので楽しく過ごせました。成績は今ひとつでしたが、スタッフも参加者もみんな犬達と大会を楽しもうという雰囲気だったのでとてもリラックスしてプレーが出来ました。

そして何よりアメリカの人達は、犬を家族の一員としてとても大切にされていて、社会的にもそれが認められていることに驚き、感動しました！

最後に、一緒に遠征に行った皆さん

お疲れ様でした~~~~~！！

飛弾野 & 紋次郎





きゃるふおるにあ IN 道産子娘～ず

Open (フリーフライト部門) / 第7位

中尾園枝&楓こ

お台場から群馬へ移動し、さらに新潟へと向う車の中でメールが届いた。

そして新潟に着き、一息していると『決定』の連絡。

『アメリカに行けるんだって!』と相棒が大騒ぎしている中、一人なまら悩んでいた。

本当は両手を挙げて『やったぁ〜!!』って喜びたかった。

でもここで弾き出された金額『約25万』

どこにあるんじゃぁぁぁ〜〜〜〜〜〜!!と脳が叫ぶ。

『チャンス』が目の前にある…でもお金が…。

2度と行けないかも知れないし…でもお金が…。

チャンスはお金では買えないモノ、チャレンジしてみよう!!

ってな訳で、短い時間の間に決まった大きな現実にも、生まれて初めて『決断』と言うものをした。

はい。お母ちゃんに借金しました。(笑)

行くと決めたからにはさぁ大変!

日本国から出たことのないそのうち、パスポートを持ってませえ〜ん。(笑)

日曜日の大会をキャンセルし、相棒を道連れにパスポートを作るために帰札した。

出発は…8日後…(爆)

ドタバタだけど準備は進み、何とかパスポートも間に合った。

はぁ〜っとため息をついたのは、ホテルのベッドの上。

『もうアメリカに来ているんだぁ…。』

そんなそのうちのベッドの横で楓こは、ベッドの上で爆睡していた。

ここが日本語の通じない『アメリカ』と言う所で、世界選手権という大会に来ているということも、帰ったら2週間の検疫があることも知らずに…。

『そのうちが居るから、とりあえず良いか。』みたいな顔をしている。

楓こにとっては、いつものポイント遠征となんら変わらないのだろうか?

大会当日、さぞかし華やかな大会であろうと思いきや普通だった。(笑)

とてものんびりしていて、時間もアバウト…(^_^;

『5分後に開会式』との情報が入れば、20分後なんてのはざら。

さすがアメリカ…とってしまった。

でも、このユッタリさが、また新鮮だったなぁ。

『いいなぁ…なまら楽しそう…』

これが、一番最初に思った感想だった。

時間を気にする事無く、大きくユックリと愛犬との時間を楽しんでいる。

『Oh! Sorry!』とか『Year!』とか『Good Job!!』って競技会中に大声で愛犬に話しかけている。

『今日』だからでは無く、きっと普段からこんな感じなんだろう。

枚数にこだわり、キャッチ率にこだわっていた自分が惨めに思えた。

ごめん楓こ…思いっきり忘れていたよ…。

名前がコールされコート内に入ると、みんなが拍手をして迎えてくれた。

曲が始まり、スタートのタイミングを計る。

…『楽しくやろうぜ♪』…

今までの大会でこんなに楽しさを感じ、プレイできたことはあったらどうか?

楽しい!楽しい!!

自然と笑顔はこぼれるし、からだも自然に動く。

周りの歓声が聞こえ、調子に乗るそのうち(爆)

コートを出ると他のプレイヤーが笑顔で、誉めの言葉をかけてくれた。

なまら嬉しいんでないかい♪

決勝ラウンドは2分だった。

90秒のルーティンしか考えていなかった為に、残りの30秒は取って付けたような形になってしまった。(笑)



最後にドッグキャッチで楓こをキャッチした時、嬉しくて思わず抱きしめた。

嬉しさで達成感で涙が出そうになったよ☆

ディスタンスはルールが違い戸惑ったけれど、楓こが助けてくれた♪

そんな楓こは、『ここが何処かは知らんけど、フリスビーは楽しいじょ』って言わんばかりのハッスルぶり。

そんな楓こに、『ありがとう』の言葉しか見つからなかった。

2日間で合計5ラウンド。

日本の芝よりも深く、前に進む力を妨害しているにも関わらず、楓このスピードは2日間通して落ちることは無かった。

大会終了後には、地元の子供たちとフリスビーをしていた(笑)

あ、良太と似非ロングもやっていたなあ・・・(爆)

結果は7位入賞。

予選より順位を落としてフィニッシュだったけど、とても満足している。

順位よりももっと大切なことを目で、耳で、肌で感じれた世界選手権。

参戦して良かったと思う。

この貴重な経験が出来たのも、お師匠様が楓こを譲ってくれたお陰です！

お師匠様に、感謝！感謝！感謝！！

そして、私を信じて付いてきてくれる楓こに、万歳！万歳！万歳！！

あ、まりちゃんもアリガトね♪

2004年5月29日

中尾 園枝&楓こ



AWI

Open (フリーフライト部門) / 第4位

早川利幸 & BEAT

今回でアメリカ遠征は3回目になります。

場所は去年と同じロサンゼルス・ラミラダで行われました。

開催日が去年と違い時期が遅かったので気温の面で暑くはないかと心配していましたが

日向は少し暑かったですけど乾燥しているせいか思ったより快適でした。

今回の出場メンバーは4人と少なかったですが付き添いの加部さん、通訳の角野くんとともに6人でとても楽しい遠征でした。

大会は前回同様ゆっくりとしたテンポでおこなわれました。

前回と同じ顔ぶれのチームもたくさんエントリーしていてアメリカ的なプレーを今回もたくさん見ることができ興奮し楽しむことができました。

大会の結果から言えば前回よりワンランク下がった4位でした。去年よりフリーのポイントが思ったより伸びなくディスタンスのポイントで何とかかせいだものの去年のランクを上回ることはできませんでした。

でもいつもながら大会は楽しく60チームに近いフリーのチームがこれだけ集まることは日本でもないのでたくさんのほかのチームのプレーを目の当たりに見ることができ興奮し刺激を受けたことだけでもアメリカに行った甲斐があ

ります。

飛弾野&紋次郎チーム、中園&楓こチームと一緒に3チームそろって2日目のファイナルに残ることができたこともうれしかったです。

またディスタンスのクラスで新倉&音々チームが優勝し間近で世界チャンピオン誕生を目の当たりに見ることができたことも感激でした。

もしまたアメリカにいける機会ができたならぜひまた行ってみたいところです。





開催日：2004年5月22日・23日
 会場：アメリカ ロサンゼルスラ・ミラダ

今年で30周年となった記念すべき大会『The 2004 Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships 30th Anniversary』。

日本からこの歴史ある世界選手権へのキップを手に入れたのは4チーム。

フリーフライト部門に世界一へ3度目の挑戦となった、2003ジャパンファイナルフリーフライトチャンピオンの早川利幸&BEATチーム。選考会でアメリカ行きを勝ち取った、飛弾野文泰&紋次郎チーム・中尾園枝&楓こチーム。

そしてディスタンス部門に2004ジャパンファイナルグランドチャンピオンシップ準優勝の新倉謙吾&音々チームが参加しました。

● 5月19日（水）

日本選手団4チームが成田空港からロサンゼルスに向いました。現地時間5月19日8:00に到着した一行は、The Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships のスタッフとともにホテルへ向い、少しばかりの休息を取りました。

関西空港から向った本部スタッフと合流した一行は、まず飲料水・食物の買出しに近くのスーパーへ行き、再びホテルへ戻り、19:00から行われる現地獣医師による健康チェックを受けるまでの時間、時差の狂いを取るために各自からだを休めました。

健康チェックは、4頭ともに長旅の疲れを見せることもなく、明日からの練習を楽しみにしているようにも見られ、何事もなく終了しました。

● 5月20日（木）

本部スタッフが、米国フリスビードッグの創設者の一人であるエルドン・マッキンタイア氏とともにUSDAへ書類に承認印をもらいに行っている間は、各自自由行動を取り、昼から本部スタッフとともに近くのショッピングモールへ、つかの間の観光気分を味わいに行きました。

夕方5時からディスカバリング・ザ・ワールド社（当協会のフリスビーはディスカバリング・ザ・ワールド社より直接輸入しております）の取締役マーク・モルナー氏に迎えに来ていただき、ラ・ミラダ会場へさっそく視察と練習に向いました。

19時30分までの間、会場の雰囲気を感じながら練習を行い、ホテルに戻って全員集まっての初めての夕食をとりレストランに行きました。日本とは風習の違うアメリカでのレストランの食事は、それも楽しく、話題尽きることなく夕食を終えホテルへ戻りました。



▲ ホテルの前でのひとコマ



● 5月21日（金）

I・D・D・H・A主催で行われるロングディスタンス大会とフリスビードッグクリニックが行われる日。日本選手たちは朝から練習がてら見学に行きました。

そこで笑顔で向え入れてくれたのが、今年のジャパンファイナルにも来日した、フリスビードッグの生みの親でもあるアレックス・スタイン氏。

会場では、明日からの大会を控えた選手たちが大勢ロングディスタンス大会に挑戦していましたが、世界でもトップレベルの遠距離選手であり、一般のフリスビー投げでは198メートル以上の記録を保持しているマーク・モルナー氏が、▲マーク・モルナー氏ファーストバックを使用してのロングディスタンスで、今大会97mをオーバーしての優勝を飾りました。



大会を見学し、アメリカ選手とともにロングスローの練習などをしながら交流を深め、15時過ぎに会場を後にした一行は、19時30分から行われる、スタッフと選手有志が集まったのピザパーティーに参加するために、いったんホテルに戻りました。

例年行われるピザパーティーでは、アレックス・スタイン氏・エルドン・マッキンタイア氏・マーク・モルナー氏を始め、The Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships で過去3年連続チャンピオンの座についた、ゲーリー・スズキ氏の姿も見られ、各国の選手たちがピザを片手に賑やかな交流の時間をすごしました。



▲ 恒例のピザパーティー

● 5月22日（土）

いよいよ The Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships 第1日目。天候は晴れ。最低気温16度、最高気温23度。風の状況は弱風からやや強風。

日本選手達は、早朝6時45分にホテルを出発しラ・ミラダ会場へ向かいました。会場に到着して、日本チームのテントを設置し準備を整えました。

大会会場準備も終わり、9時30分からプレイヤーズミーティングが行われました。ゲーリー・スズキ氏から競技の注意事項が発表され、いよいよ競技開始となります。フリーフライトの部のエントリー数は46チーム。ディスタンスの部は36チームで争われることになります。

この日の予選を勝ち残り、明日の決勝へ進出出来るのは、それぞれ12チーム。日本選手のエントリーは、フリーフライトの部では、飛弾野&紋次郎チームが1番。早川&BEATチームが19番。中尾&楓こチームが41番。ディスタンスの部では、新倉&音々チームが15番。

フリーフライトの部、第一ラウンドはフリーフライト90秒、ここで予選通過は20チームに絞られます。日本選手は順調に20チームに残り、第2ラウンドディスタンスへ、ここでも順調にポイントを加算した各チームは、3チーム全て12位内に残り、翌日の決勝へ進出することが出来ました。

ディスタンスの部での新倉&音々チームは、第1ラウンドトップで第2ラウンドへ、第2ラウンドでは、確実にミドル狙いでポイントを上げてきたJoel Zucker&Baileyチームに追いつかれ、予選2位で翌日の決勝ラウンドへ進出。しかしながら、トップとの差は僅か0.5ポイントと、決勝ラウンド接戦の勝負が見込まれます。



▲ プレイヤーズミーティング風景

The 2004 Ashley Whippet[®] Canine Frisbee[®] disc World Championships

● 5月23日（日）

決勝の日。天候は曇りのち晴れ。最低気温16度、最高気温23度。風は弱風。

フリーフライトの部の決勝第1ラウンド、ディスタンスから始まりました。

フリーフライトの部では、第1日目の予選トップThe Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships 2年連続のチャンピオンチームBob Evans&Nickチームが2位との差を4ポイント。日本チーム最上位の予選6位通過、早川&BEATチームとの差9ポイントと、頭ひとつリードしての決勝での戦い。

決勝進出13チームのファイナリストたちの戦いが始まり、昨日のポイント差をつめようと、決勝第1ラウンド、ディスタンスに挑みました。

日本チーム早川&BEATチームは21ポイントと高ポイントを得た。飛弾野&紋次郎チーム15ポイント。中尾&楓こチーム16.5ポイントと順調にポイントを加算し第1ラウンド終了。トップBob Evans&Nickチームから予選5位までのチームも無難に1ラウンドをこなしポイントを加算しました。

この後行われたのは、ディスタンスの部の決勝。コンディションは太陽が出ていないため悪くはなく、風の影響もなく行われました。

予選の段階で、1位2位争いが注目される中、2位で決勝進出した新倉&音々チームはノーミス、ロングエリアを含めた5投を決めパーフェクトプレーを見せました。

しかし、後追いの予選1位通過のJoel Zucker&Baileyチームもミドルを中心に6投を全てパーフェクトキャッチ。結果、新倉&音々チーム19ポイント。Joel Zucker&Baileyチームは17.5ポイント。

新倉&音々チームが、予選0.5ポイントをひっくり返して逆転の優勝を飾り、日本選手初めての優勝カップを日本に持ち帰ることが出来ました。

そして、いよいよフリーフライトの部決勝第2ラウンド、2分間のフリーフライト。このラウンドで世界チャンピオンが決まります。

日本チームは、決勝のみ2分間のルーチンをうまくまとめ上げ健闘をしましたが、Bob Evans&Nickチームを含むトッ



▲ さすがワールド! 高レベルな演技が続く・・・。



▲ 表彰式（左端はディスタンス部門優勝の新倉選手）



▲ ランダーカップを前にAWIスタッフ



▲ 3年連続3度目の優勝を飾った Bob Evans 選手



● 5月24日（月）

プチームも完璧なプレーを見せポイントを加算。

結果、2004 The Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championshipsチャンピオンの座に輝いたのは、3年連続3度目の優勝となるBob Evans&Nickチームでした。

2位にLawrence Frederick&AeroDynamicチーム。3位にSabine Bruns&Crazyチーム。そして惜しくも第4位に早川利幸&BEATチームが入りました。中尾園枝&楓こチームは第7位。飛弾野文泰&紋次郎チームは第11位と、日本チームは大健闘をしました。

30回を迎えた今大会は記念すべき大会であり、表彰セレモニーの前に、ワールドファイナリスト有志からアレックス・スタイン氏に記念の盾が贈られ、アレックス氏を初めスタッフへの感謝と敬意を表しました。

そして、表彰セレモニーでは、2日目のファイナリスト全員にメダルが授与され入賞チームにはカップが贈呈されました。そして、栄えあるランダーカップを手にしたのはBob Evans&Nickチームでした。

朝7時。昨日の興奮冷めやらないままに日本チームは予定通り11時30分ロサンゼルス発の飛行機で帰路に着き、無事6日間の日程を終えることが出来ました。

ワールドファイナルを生で観戦し、世界のレベルの高さを目の前で体感できたことは、非常に感激すべきことでした。皆様も世界のトッププレイヤーを一度は生で見ていただきたいと思います。

そして来年のThe Ashley Whippet Canine Frisbee disc World Championships行きの切符を手にするのはあなたかもしれません。

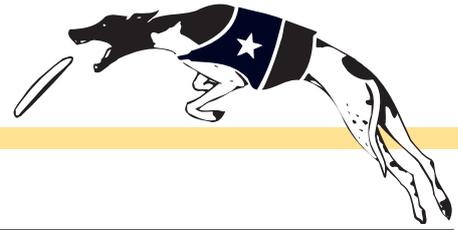


▲今回参加した日本選手たち（左から：飛弾野&紋次郎、新倉&音々、早川&BEAT、中尾&楓こ）

The 2004 Ashley Whippet® Canine Frisbee® disc World Championships

OPEN (フリーフライト部門)

	NAME	DOG	ROUND1 (FREESTYLE)				CATCH FETCH	ROUND3 (FREESTYLE)				CATCH FETCH	ROUND5 (FREESTYLE)				GRAND TOTAL
			S	L	D	X		S	L	D	X		S	L	D	X	
	Bob Evans	Nick	8	9	9	8.5	20.5	9	9.5	9.5	9.5	18	9	10	9	9.5	148
	Lawrence Frederick	Aero Dynamic	9	8.5	9	8.5	15	10	9.5	9.5	9.5	16.5	9.5	9	9	9.5	142
	Sabine Bruns	Crazy	8.5	8	8	8	14.5	9.5	9	9	9.5	21	8.5	8.5	8.5	8	138.5
④	Hayakawa Toshiyuki	Beat	8.5	8	8	8	16	9	8.5	8.5	9	21	8.5	8.5	8.5	8	138
	Lawrence Frederick	Happy Girl	9	8.5	9	8	17	8.5	8.5	8.5	8.5	19	8	8.5	8.5	8	137.5
	Paul West	Tucker	9	8.5	8.5	8	16	9.5	9.5	9.5	9.5	10.5	9	9	9	9	134.5
⑦	Nakao Sonoe	Fuko	7.5	7.5	7.5	7.5	18.5	9	8	8	8.5	16.5	7.5	8	7.5	8	129.5
	David Bootes	Chico	7.5	8	8	7	12.5	8	8.5	8	8	19	8	8.5	8	8	127
	Christopher Gardner	Sky Cody	8.5	8	8	7	16.5	8	8.5	8	7.5	13	8	9	8.5	8	126.5
	John Misita	Jetta	8.5	9	8	8.5	11.5	8	8.5	8	8	15	8.5	8.5	8.5	8	126.5
⑪	Hidano Fumihiko	Monjiro	8	7.5	8	7	8	8.5	9	8.5	8.5	15	7.5	8.5	8	8	120
	Pon Saradeth	Chico	9	9	9	8	6	8.5	8.5	8.5	8.5	4.5	9.5	9	9.5	9.5	117
	Susan Markham	Mighty Carolina	7.5	8.5	7.5	7.5	11.5	7	9	7	7.5	11.5	8	9	7.5	7.5	116.5
	Sung Hyun	Tag	8	8.5	7.5	8.5	10.5	7	8.5	7.5	6.5						72.5
	Joseph Jones	Kylie	7	8	7.5	7.5	11	8	8	7.5	7.5						72
	Tom Clements	Taylor	8	8	8.5	7.5	5.5	7	8	7.5	7.5						67.5
	Benny Wong	KD	8	7	6.5	5.5	12	7	7	7	6.5						66.5
	Bruce Brantley	Casey	7	7.5	7	7	7.5	7.5	7.5	7	7.5						65.5
	Jaeleen Sattler	Storm	7	7.5	7.5	6.5	7.5	6.5	7.5	7.5	7						64.5
	Alan Thibodo	Jasper	6.5	7.5	6.5	7	7.5	5.5	6.5	6	6						59
	Steve Malmlov	Foster	7.5	7.5	7	6.5	3.5	6.5	7	6	5.5						59
	Steve Teer	Guinness Stout	7	7.5	7.5	6	0	7.5	7.5	7.5	7.5						58
	Sierra Lyman	Awesome	8	7.5	7.5	7	2.5	5	6	6.5	5.5						55.5
	Greg Tresan	Spyder	6.5	8	8	7	9										38.5
	Bradley Sattler	Sonic	5	6.5	6.5	7											25
	Donna malmlov	Ashley Whatsit	6	6	6	7											25
	Robin Northam	Kobe	6.5	6	6.5	5.5											24.5
	Robin Northam	Rip	5.5	7	6.5	5											24
	Sierra Lyman	Snaz	6	6	6	6											24
	Tom Clements	Fiesta	4.5	6.5	6	5.5											22.5
	Chris Cabral	Canie	5	7	6.5	4											22.5
	Chris Cabral	Ricky	6	6.5	5.5	4.5											22.5
	Tony Crumly	Gena	5	6	6	4.5											21.5
	Pat Wilkins	Hanna	5	6	5	4.5											20.5
	Kathy Miller	Ruckus	4	6	5	4.5											19.5
	Pat Wilkins	Abby	4.5	5	5.5	4.5											19.5
	Lorrie Bitchen	Aussome E. Ruff	4.5	5.5	4.5	4.5											19
	Bob Evans	Luke	4.5	4.5	5	4											18
	David Bootes	Heaven's Heir	4	4	3.5	4.5											16



CATCH & FETCH (ディスタンス部門)

NAME	DOG	ROUND1							ROUND2							ROUND3						GRAND TOTAL
		1	2	3	4	5	6	TOTAL	1	2	3	4	5	6	TOTAL	1	2	3	4	5	6	
Niikura Kengo	Nene	3.5	3.5	3.5	3.5	4.5		18.5	0	3	4.5	3	4.5		15	2	4.5	3.5	4.5	4.5		52.5
Joel Zucker	Bailey	3.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.5	18	2.5	2.5	3.5	3.5	2.5	1.5	16	2.5	3.5	2	3.5	2.5	3.5	51.5
Chris Cabral	Maxx	3.5	3.5	3	0	0		10	0	3.5	4.5	4			12	3.5	4.5	3.5	4	4.5		42
David Bootes	Exhibition	3.5	2	3.5	3.5	0		12	3.5	3.5	0	3.5	2.5		12	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5		41.5
Ron Cole	Annie	2.5	0	2.5	2.5	1.5	3	12	0	2.5	2.5	2	2.5	2	11.5	2.5	3.5	2	3	4		38.5
Neil Furukawa	Belle	2.5	0	3.5	1.5	2.5		10	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5		13.5	3.5	3.5	3.5	1.5	3		38.5
Joseph Jones	Kado	3	4.5	0	0			7.5	4.5	3	4.5	0			12	4.5	4.5	4	4.5		37	
Tom Clements	Cozmo	0	2	3.5	3.5	3.5		12.5	2.5	0	0	3.5	2.5		8.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.5		35.5
Steve Romine	Itsy	3	3	3.5	2	2.5		14	2	3	2	2	0		9	0	2	2	0	2	2	31
Kathy Mills	Sonnyboy	3	2	0	2			7	3.5	3.5	2.5	0			10.5	3	3	3.5	2			29
Cindy Del Corto	Blaze	2.5	2.5	3.5	2	2.5		13	3.5	0	2	3.5			9	2.5	0	0	0			24.5
Lawrence Frederick	Sprite	0	3.5	3.5	0			7	0	3.5	3	1	3.5		11	0	0	0	0			18
Paul West	Lexie	4.5	4.5	0	0			9	4.5	0	0	3.5			8							17
Albert Puskas	Sierra	0	2.5	2	2	2.5		9	2	0	2	1	2		7							16
Greg Tresan	Stinger	3.5	0	3.5	0			7	0	4.5	4.5	0			9							16
Cassie Anderson	Stella	0	2.5	0	0	2	2.5	7	0	1.5	2.5	1	0	2.5	7.5							14.5
Steve Teer	Sandy	2.5	0	2.5	3.5			8	0	0	0	3.5			3.5							11.5
Kathy Mills		2.5	0	2.5	3.5			8.5	2.5	0	0				2.5							11
Burt	Sierra	0	2.5	2	2	2.5		9														9
Robert Shackleton	Jamie	3	3	0	2			8														8
Lou Del Corto	Tank	0	3.5	0	3.5			7														7
Robert Newman	Torque	2	2	0	2.5			6.5														6.5
Eric Graewingholt	Jake	2.5	3.5	0	0	0		6														6
Steve Malmlov	Sydney	0	2.5	2.5	0			5														5
Bradley Sattler	Flirt	1.5	0	0	3.5	0	0	5														5
Jasmine Hyun	Snap	0	1.5	0	2	0		3.5														3.5
Sierra Lyman	Dynomite	2	0	0	2.5	0		4.5														4.5
Ken Lee	Jack	0	1	0	1	0	1.5	3.5														3.5
Bruce Brantley	Haley	0	0	3	0	0		3														3
Lorrie Bitchen	Wizzer	0	0	0	0			0														0
Greg Hodal	Nina	0	0					0														0
Eric Holt	Crystal	0	0	0	0	0		0														0

JUNIOR (ジュニア部門)

NAME	DOG	ROUND1							ROUND2							ROUND3						GRAND TOTAL
		1	2	3	4	5	6	TOTAL	1	2	3	4	5	6	TOTAL	1	2	3	4	5	6	
Shawnice Cabral	Maxx	0	0	0	0	2		2	2	2.5	2.5	2	0		9	2.5	0	2.5	1.5	2		19.5
Nikki Sattler	Flirt	0	0	0	0	1.5		1.5	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	2.5	1.5	9.5
Heather Crumly	Gena	1	2.5	0	0	0	0	3.5	0	1	0	0	1		2	0	0	2	0	0		7.5
Andrew Sattler	Taffy	0	2.5	1.5	0			4	0	0	0	0	0		0	2.5	0	0	0			6.5

PURINA
PRO PLAN
プロプラン
プロプラン カップ
日韓親善試合

本年3月に韓国フリスビードッグ協会が設立されて、初めての日韓親善試合として開催された日韓親善国際フリスビードッグ選手権IN兵庫播磨。先だって行われた韓国での選考会で選ばれたノミネート選手とスタッフを迎えて、日本からもノミネート選手を含めた多数の参加者約400チームで盛大に開催されました。

● 6月5日(土)

大会第一日目、晴天の中での開会式を迎えました。開会式では、日本フリスビードッグ協会代表である山田仁の挨拶から始まり、韓国フリスビードッグ協会会長パン・キュウシ様、韓国フリスビードッグ協会最高顧問パク・トクヘ様、そして、当協会JFA発祥の地である新潟県において、古くから日本フリスビードッグ協会の活動や会場誘致に対し、また動物愛護に強く関心をいただき、当協会の活動に深くご理解をいただき、最大なるご尽力をいただいております、新潟県議会議員の青木太郎様を迎えてご挨拶を頂戴し、日韓親善試合に参加する選手を激励しました。公式ロングディスタンス選手権から始まった競技会の方は、播磨会場特有の風が回るように変化する状況、ロングディスタンス競技にとっては、追い風になったり向かい風になったりで、苦しい展開となりました。

公式シリーズ選手権第17戦では、80チームを超えるエントリー数。前半20チームまでは、弱風向かい風からはじまり、その後追い風となり、後半にしたがいポイントも伸びてきました。第1ラウンドトップは36ポイントで間禎永&Tachyon(ボーダーコリー)チーム。第2ラウンドは向かい風となった状況の中、ポイントは伸び悩み、決勝7チームのトップは68ポイントで間禎永&Grassチーム。決勝で、7位通過の大谷光浩&いであ(ボーダーコリー)チームが30ポイント出すも及ばず、間禎永&Tachyonチームの優勝となりました。

公式レディース選手権では、第1ラウンドに公式シリーズ選手権でも活躍を見せている田口佳奈選手が、LUKE(ボーダーコリー)とのコンビで、なんと40ポイントを出しダントツのトップで第2ラウンドを迎え、予選合計70ポイントで決勝に進み、ファイナルラウンドでも32ポイント。合計102ポイントで優勝を飾りました。また準優勝は、混戦状況となった中で、決勝進出第4位から逆転をした、西山いづみ&サリー(ボーダーコリー)チームでした。



▲ KFA最高顧問 パク・トクヘ氏



▲ 青木太郎 新潟県議会議員

公式フリーフライト選手権では、第1ラウンド風の影響で完成度に悩むチームが多く、第2ラウンドのディスタンスでポイントを伸ばし決勝へ進んだのは、倉科政文&ティナ（Aシェパード）チーム。しかし、決勝ラウンドで完璧な演技を見せた、倉科純子&りん（ボーダーコリー）チームが逆転しての優勝となりました。



▲ 公式シリーズ選手権第17戦 表彰



▲ 公式フリーフライト選手権 表彰



▲ 公式レディース選手権 表彰



▲ 韓国チーム ヤン・キョンスプ&BOBOチームのフリー演技



▲ 韓国チームの皆さん

大会第一日目の夜には、日本選手と韓国選手そしてスタッフの懇親会が催されました。韓国フリスビードッグ協会会長をはじめ、韓国の選手とスタッフを中心にして、飲食をしながらの懇談と、韓国選手の紹介や明日に迫った韓国親善試合への抱負を語るなど、楽しい時間をすごしました。

最後には、無料エントリー券の当たるジャンケン大会が行われ、参加者にプレゼントされました。



PRO PLAN CUP 2004

日韓親善国際フリスビードッグ選手権

● 6月6日 (日)

大会第二日目、いよいよ日韓親善国際フリスビードッグ選手権の日。あいにくの雨模様となってしまいましたが、愛犬にとっては暑さもしのげて良好のコンディションで始まりました。親善試合にやってきた韓国からのノミネートチームは、ディスタンスの部6チーム。フリーフライトの部4チーム。開会式はジャパンファイナルさながらの選手呼び出しから始まり、日本の全国から集まったノミネート選手をはじめ参加選手全員がコートに整列をして、JFA代表挨拶に続き、株式会社ナナオ様の嶋倉洋二様から激励をいただき、日本・韓国の国歌斉唱が行われました。

日韓ディスタンス選手権では、初めての日韓親善試合ということもあり、各チーム緊張のためかポイントは伸び悩みの状況から始まりました。後半30ポイント代が出始めましたが、全体的にはポイント差も微妙なところ。

その中で、第1ラウンドに40ポイントをたたき出したのは、山本孝治&ナナ(ウィペット)チーム。その後、ミスデッドエンドと言われる田口佳奈選手がSENNA(ボーダーコリー)とのチームで39ポイントと続きました。

韓国のチームも健闘する中で第2ラウンド、第1ラウンドトップ3が順調にポイントを伸ばして決勝ラウンドへ。優勝は、第1ラウンド40ポイント・第2ラウンドとファイナルラウンドでそれぞれ30ポイントを出し合計100ポイントでの堂々の優勝、そして初めての日韓優勝カップを手に入れたのは、山本孝治&ナナチームでした。

日韓フリーフライト選手権では、レベルの高い戦いが見られました。韓国チームも難易度の高い技を連発し、完成度の高いプレーを見せる中、日本チームも負けずに高レベルな演技を見せていました。

ファイナルラウンドは、日本チーム4チーム、韓国チーム1チームの戦いとなりました。決勝でも素晴らしい演技を見せた各チームですが、予選ラウンドから決勝ラウンドまで完璧

に近い演技を見せた、間美加&Grass(ボーダーコリー)チームが優勝を飾りました。そして準優勝は、韓国からの参加である、ヤン・キョンスプ&BOBO(Gシェパード)チーム。第3位には田井ひかる&TANKO(フラットコートド)チームでした。



▲ 日韓戦・フリーフライト部門 表彰

この日は、日韓親善記念レディース選手権も行われ、全国からのランキング25位に入るチームも参加。決勝進出のチームは、中国地区・関東地区・四国・関西と、まさに日韓戦にふさわしい全国の戦いとなりました。優勝は、予選で67ポイントを出した第1日目でも優勝を勝ち取った田口佳奈&LUKE(ボーダーコリー)チームでした。

『プロプランカップ2004』の冠がついた今大会を、JFAメインオフィシャルスポンサーでありますネスレピュリナペットケア株式会社プロチャンネル部事業部長ルパート・サットン様も観戦にこられ、閉会式ではご挨拶もいただきました。後半雨もやみ盛大な中で行われた韓国親善国際フリスビードッグ選手権はこうして幕を閉じました。



▲ 日韓戦・ディスタンス部門 表彰



▲ 日韓親善記念レディース選手権 表彰



● 大会結果（6月5日）

《公式フリーフライト選手権》

①	倉科 純子	りん	長野県	ボーダーコリー	66.0 (39.0)
②	倉科 政文	ティナ	長野県	Aシェパード	62.0 (36.5)
③	黒田 昌克	シャオロン	兵庫県	ボーダーコリー	57.0 (30.5)

《公式シリーズ選手権 第17戦》

①	間 禎永	Tachyon	福岡県	ボーダーコリー	88
②	西山 哲也	ハンター	兵庫県	ボーダーコリー	83 (23)
③	大谷 光浩	いであ	東京都	ボーダーコリー	83 (22)
④	丸島 康裕	JENNIFER	千葉県	ボーダーコリー	77
⑤	正木 成人	さくら	奈良県	フラットコートテッド	74

《公式ロングディスタンス選手権》

①	空野 正志	さいら	兵庫県	ラブラドル	55.47m
②	大山竜太郎	リンク	大阪府	アイリッシュセター	49.88m

記録	吉岡 佐都	ダージリン	岡山県	ウエルシュコーギー	39.68m
----	-------	-------	-----	-----------	--------

《公式レディース選手権》

①	田口 佳奈	LUKE	岡山県	ボーダーコリー	102
②	西山いつみ	サリー	兵庫県	ボーダーコリー	68
③	安田 教子	ガーフィー	神奈川県	ボーダーコリー	65
④	間 美加	Tachyon	福岡県	ボーダーコリー	62
⑤	増田 真代	虎之助	東京都	Aシェパード	52

《コースオープン大会》

①	有和 寛	ジュリ	鳥取県	ボーダーコリー	57 (37)
②	宮迫 裕二	トラッド	京都府	ボーダーコリー	53 (37)
③	村上 幸三	ゲルファ	岡山県	Gシェパード	50 (35)

《小型犬大会》

①	吉岡 達浩	ダージリン	岡山県	ウエルシュコーギー	67 (45)
②	福原 芳郎	ミミ	兵庫県	ジャックラッセル	44 (28)
③	三崎 彰午	ミュウ	和歌山県	ウエルシュコーギー	35 (28)

《チャレンジ大会》

①	渋谷 典代	あんず	岡山県	ラブラドル	61
②	原田 征子	マリン	兵庫県	ボーダーコリー	53
③	須鎗 孝康	ジェイ	兵庫県	Aシェパード	52

《こども大会》

①	原田 和起	マリン	兵庫県	ボーダーコリー	36
②	横山 大河	ナミ	高知県	ボーダーコリー	35
③	空野 渚	さいら	兵庫県	ラブラドル	32

● 大会結果（6月6日）

《日韓戦・フリーフライト部門》

①	間 美加	Grass	福岡県	ボーダーコリー	84.5 (49.5)
②	YUNCHUNG SUP	BOBO	KOREA	Gシェパード	77.0 (44.5)
③	田井ひかる	TANKO	兵庫県	フラットコートテッド	74.5 (41.5)

《日韓戦・ディスタンス部門》

①	山本 孝治	ナナ	兵庫県	ウィベット	100
②	田口 佳奈	SENNA	岡山県	ボーダーコリー	97
③	三本 欽麗	Raystar・Hose	東京都	ボーダーコリー	95
④	横山 泰久	ナミ	高知県	ボーダーコリー	86
⑤	丸島 康裕	JENNIFER	千葉県	ボーダーコリー	82

《日韓親善記念レディース選手権》

①	田口 佳奈	LUKE	岡山県	ボーダーコリー	86
②	小西 和夏	パーティーナイン	大阪府	ラブラドル	66
③	間 美加	Tachyon	福岡県	ボーダーコリー	63 (19)
④	安田 教子	ガーフィー	神奈川県	ボーダーコリー	63 (18)
⑤	横山まゆみ	ナミ	高知県	ボーダーコリー	54



NAME : CH SANBAR
Best in Specialty Show; Multiple Group Winner
HANDLER : Amy Rodrigues
Owners : Polly West, Barbara Scott and Agnes Rodrigues
BREEDER : Polly West

「プロプラン」で育ち、 「プロプラン」で勝った。

2003年度・AKC年間ランキングで、
上位10頭のうち7頭が「プロプラン」。

※AKC (アメリカン・ケンネル・クラブ) のオール・ドッグショー・ランキング結果。



育て、伸ばし、勝つためのチカラを追求するプロのために、愛犬のライフプランを極限まで研究開発しているスーパープレミアムフード、「プロプラン」。アメリカの「ネスレ ピュリナ ペットケアセンター」での分子生物学、免疫学、臨床繁殖学などの最新研究成果に基づき、アメリカ本国で作られています。「プロプラン」の製品ラインは二つ。たん白質と脂肪の理想的な割合や栄養素を考えた「ライフステージライン」。肥満やアレルギーで悩む愛犬のケアのために、脂肪分・カロリー・原材料を特別に設計した「エクストラケアライン」です。上質で新鮮な原材料を厳選、無着色・無香料の自然な味わい「プロプラン」。栄養が愛犬の体のすみずみに行き渡り、引き締まった理想的な体型づくりと健康で長生きな生活をサポートします。

チャンピオン犬を育てる、「ピュリナ プロプラン」 

(子犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (小型犬子犬用) 1kg / 3kg ・ (成犬用/チキン&ライス) 1kg / 3kg / 8kg ・ (成犬用/ラム&ライス) 1kg / 3kg / 8kg
(小型犬成犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (シニア犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (アクティブ犬用) 8kg ・ (ダイエット) 1kg / 3kg / 8kg ・ (センシティブ) 1kg / 3kg
プリーダーの皆さま用として、全アイテムとも17kgサイズがあります。